

考慮に入る。

それで現今の生産者といふと、生産機關の經營程度が、農家の門戸的といふ比較からすると、交易組織、又は配分組織又は生産組織といふピラミット形状の上位段階に位置し、段階が農業倉庫又は産業組合の水平的段階の如きと相等しいとして見做すことによりて、遙かに組織上に於て一致して行く。幾多の生産工場が交易市場を織り成すに適するヶ所に設置されたるセメント交易配分所の立會に對して、指定せる一覽揭示場に自由意志に基いて販納して、立會すべく販納明細書を交易所に送る。

彼等生産工場は、卸人が小販人の多數を自己の配分區域の得意様として獲得すべく、迅速、便宜、親切をモットーとして大量を取扱ひ、而して奉仕的勤勞價値を所得せんと、競争的善美精神の下に進出する配分組織の一段階たるものと等しい處の、生産組織部内の産業組合と等しい段階に列するものである。交易所に於て公平に寄附かれる處の建値について、他の工場産との建値の比較は、品質比較（此の場合、優秀生産と大量生産設備の競争的に依つて比較が高尚する）に於ける優劣規格上の差であることに外ならない。又、多少、當時の必要量と消費ヶ所といふ地理的問題によりて偏在使用ヶ所の異なる輸送關係によりて、差額の生ずることも萬止むを得ないことであらう。けれども、公定價格として交易されたる場合には、遠近に不拘、運賃問題によりて比較される。その様にセメント界に於ける又一般物貨の輸送關係から來ることもあるし、一般物品の全般的昂騰又は低下といふことから生ずるであらう。地理的有用ヶ所の爲めに、附近の生産物が偏して差異の生ずることは、客觀的の

ことであつて、主觀的セメントそのものからは、公平な價値として販配價格化されてゐることに間違ひはない。

セメント交易配分所の設置については、前述の米穀配分所と異り、生産、消費共に門戸的でないといふ大なる異りから、市場の位置も地理的廣範圍に亘り、便宜なヶ所を見て設置ヶ所及び數の區別がされる。かゝる意味より現はれるセメント交易配分所の設置は、國內に於て四、五ヶ所位にて足りるやも知れぬ。

門戸的でないかゝる生産物の購入問屋は、孰れ大量に購入して分轄的に消費者までへ物品流動を辿らすのではあるが、此の消費者といふものを分析して見るときには、一水平的段階の下層の消費者は少くして、〇〇組、〇〇組等といふ様な問屋をもしのご數量を扱ふ直接消費者もあり、又、卸人の如く、又小販り人の如き量を扱ふ直接消費者も有り、各水平段階を通じて直接の消費者が存在するのである。

彼等〇〇組の直接消費者は配分組織上の卸人の取扱量又は問屋としての取扱量の地位的消費者たるが故にと言つても、彼れ等は配分組織上の機能者ではない。けれども、〇〇組は交易配分所に出揃ふ配分組織上の上段に列する位であるから、此の〇〇組セメント大量消費者は交易配分所へ出揃ふであらうことは間違ひはない。配分組織の商人としてではなく、其の度合價値者としてである。交易組織上に於て其の資格を具有したが故に〇〇組大量消費者は、問屋側と等しく交易所の立會に出揃ふことには何等の異議を挿むものではないが、商人の目的と等しい機能をするものではない。

然し彼れは事實に於て、問屋たる資格によりて交易組織を通過して、一方に於ては、直接の消費者と轉化する

のであるからして、最も個人的營業方針としては當を得た經營方法として持ち出されることは疑ふ餘地がない。若し茲に於て、その一者二轉の權益による利する處の差額が、彼等請負業者の手に歸することが出来ないとするれば、ビルディング又は大工場建築に安價を現はすことになる。言換へれば大量的購入消費者は、より少量購入消費者より、比較的安價たり得るといふことである。若し請負者の手に差額料が利益化するにせよ、彼れは一方に於て問屋として交易配分所へ飛出し、一方に於ては、卸人として又は小販人として消費者として經營したことがある。

之なる段階は獨り一足飛びに通過するが故に、利益は増大を示し、段階の表面經營化せざる場合は、彼れの帳簿上に於てのみ區別される處のものである。然る故に、消費者の手に等價として販配されるセメント代價は各水階段の關所所得を附加せしめて市場に現はれたセメント代價とは何等異らない。又、ビルディング經營者は、請負業者との契約決定金額によつて彼等は其の建築に使用するセメントを、彼れが問屋としての立場の交易代價によつて渡されたか、卸人の交易代價にて渡されたか、小販人としての交易機能代價にて渡されたかといふ結論によつてのみ言ひ現はされる。言換へれば問屋としての立場に於ける代價によりて決定されたことすれば、彼れは卸人の所得額と小販りに人に歸屬すべき所得額とが、直接消費者と見做すべき處の建築依頼者の手に歸屬するのである。既に生産行程上に於て拂出されてある蓄財價值を、卸販人所得として、小販人所得として所得さる可き部分分を、消費者の手に歸したことになるのである。即ちビル建築依頼者の手に大量消費者へ廣らす割安として現は

れるのである。

交易所を中心とする直接關係問屋が、自己の購入せし物品の自由販配について、問屋が生産工場より先物受渡し決済以前に於て、彼れ獨特の相場觀からして再び、手放すか又彼れの得意先たる卸人に配分超過の爲めに手放すかの轉販させたき場合には、或は現物なりとも、生産工場の交易所販納と等しき方法を採用ばよい。即ち道路に従つて歩行し、十字路に従つて方向を定めるのである。

肥料市場の一例

尙ほ一例を以てしやう。組織的直と横斷との機能は段階に於て異りても、其の配分的各段階關所に於ける交易機能及び目的は同一である處の肥料物品の流動とその働く統制とを見やう。

肥料生産工場或は生産人の組合より前述と同一方法によりて肥料交易配分所に揭示される。糶市と見られる處の交易格或は公定價格によりて、物品は各問屋筋へ移轉する。各問屋筋は一方には、港灣都市に向つて卸人へ、一方には一番必需消費者たる農家へ渡す可く配分組織の關所たる農業倉庫へ（産組）交易販配される。茲に於ては農業倉庫は他の物品の取扱ふ商業組合と等しい地位と機能する農業倉庫として轉化する。生産物を、より増大ならしめて交易配分所へ販納する農業倉庫は、生産組織上の産業組合と等しい役割を演ずるものであるが、肥料を購入して農家の便宜と知識を與へるとききの機能者農業倉庫は、配分組織上の役割をする商業組合と同一地位で

ある。即ち機能は商業組合と等しい處の事務として、經營上から見れば兼業となり得るであらう處の農業組合であらう。各問屋たる資格を有つ全購聯、〇〇商會、〇〇商事、又は何々といふ様に幾十かの問屋の中より、より便宜である地理的輸送區域と價格的安價と迅速と親切指導のある商人より農業組合は購入れる。それ等問屋より購入する購入については、農業倉庫は自身獨眼流を以て購入するといふこともあり得るであらうけれども、恐らくは農業倉庫は一營業者と轉化することを避けるであらうことは産業組合と等しい行動機能を探る農業倉庫と同一である。

即ち彼れは部落の農家の生産收穫目的の爲めに、土地豊沃の關係を見て指導的立場を失はず、農家の申込みによりて、必要量を、取寄せて又、照會して専門的配分の分轄的供給配の役割を補ふことは商業組合と同一である。

木炭市場の一例

又、木炭について例して見やう。輸出規格検査を行ふ程の生産地にありては、無論適用されべきで、その山村のマバラが隔離してある處にありては、その地理的を考慮して、部落的産業組合が經營せらる可きに依つて、前述の農業倉庫の機能同一視することが出来る。經營せられたる部落的産業組合は、以て生産地の蒐集地理範圍及び輸送的便宜によりて、より良き交易市場中心ヶ所に木炭交易配分所を設置することによりて、生産組織上の配

分組織の制度化せらる。而して他の交易配分所と同一の機能し、生産の低下を誘致せしめたり増大せしめたりする。即ち生産者は木炭交易配分所より派遣されたる規格検査員の検査を終つて、随時に販納方を産業組合へ依頼する。産業組合は、農業倉庫の米穀販納受けと等しく販納明細書を總括して、販納科目をその規定せる期間までに送り、交易配分所の立會に準備せしむ。その間の個々に於ける金融状態及び支拂方法は農業倉庫の農家に對する信用組合又は普通銀行の販納表に對しての貸付けと同一であり、農業倉庫の産業組合地位資格と同一の機能である。例へば、能登國一帯に、又は飛騨の國一帯に、勞働力的にも生産設備の距離にも集材せねばならぬ小生産經營者たる點在の多き山間に於ては、或は繁農期の傍斯く生産する生産者ありとせば、その部落々々に於て、又は地理的中心部落に於て、木炭を取扱ふ産業組合があり、生産組織上層の交易所へ販納する。それに依つて木炭の産地として、より増産するに専念し得ることが自由であり、且又、個人生産者として自主的意志の發露もある。

若し茲に國家大計の爲めに統制運行が動いたとすれば、統制の機能は、生産組織たる交易所により簡單に目的が達せられる。例へば木炭の必需と、生産勞働と、資材とを合理化して見ると、勞働は國防の爲めに轉嫁され、資材森林は不足を告げ、益々消費は増大せんとする燃料不足の交錯するときには、木炭減産に導き、勞働者の轉業を先行せしめ而して、代用燃料の増産奨励を以て積極的に政策統制に出る。一方に於ては木炭の代用として木炭より、より價値あるものとして、且つ資源的にも惠まれてゐるものとして現はすといふことで、その爲めに

配分所より統制を行へばよい。かゝる所の産業組合は、生産部落民の稀薄からして、その經營法に至難として逢着するにせよ、農業倉庫と合置して經營されるであらうし、或は配分組織上の商業組合機能も敢て共にするであらうことは差支へない。只その經營合同については帳簿上の異なることにて、帳簿の事務に於て別離されることによりて、より經營が可能である譯である。納税方法や賦課については前述の米穀交易所と同じく購入方即ち配分組織上の問屋側より納金すればよい。

要としてよい處は、一段階の水平毎に、カルテル如きの非生的、非文化的、非組織的、非國家的の獨占的團體の結合を見るものではない。而して生産者は配分者に非ざる處は組織そのものの機能に於ける統制であり、生産組織、配分組織、即ち之を統制組織といふか、此の統制組織の網を通過することは、各水平段階の垂直連鎖であり、生産より消費への從斷であり、物品流動行程を助長し、圓滑にし、緊密なる關係を、より簡単に、より容易に取扱ひくれるのである。だから個々の經濟を組成す各職場のものは、組織形成の馴致に左向、右向することなく、無意識的に兩者の交易が行はる。又、生産物資及配分物資或は消費の轉換先きの統制については、前述の如く之亦、交易配分所を通じて運行化の容易化せらる。

若し生産者段階の彼等は、稀れに見る横平者として製紙聯合會に見るが如く、生産市場及、配分市場をも網羅せる様な大工業に重點し、而して大勢權益を恣にするれば、彼等生産工場は、利己的にはよいとしても、それが決して凡ゆる階級に及び、製紙産業界に絶対に良いといふものではない。若し彼等が、製紙聯合會を産業組合的の

如きに組織せられたとせんか、最早販配市場は統制の名の下に、個人が儘に獨占される區域ではない。統制は生産界の個人、又は配分界の個人が統制を採るものではない。又個人に統制すべく統制力を委ねるものでもない。統制は國家に於て、運営は國家に於てのみ運行されるものであることを忘れてはならぬ。

販配市場の獨占化しなかつた製紙界は、生産に到る物資の蒐集に於ても、決して獨占となり得るものではない。資材の入手及び取扱ひ、運送についても、自己流の購入方法をするといふことが出来るか否かといふことが疑はしい。現今の如き販配市場の獨占が可能として個人に統制力を委ねられてゐればこそ、又、生産市場をも委ね統制権を與附せねばならない結果になるのである。即ち爛熟せる資本主義の擁護時代である。然もそれが統制の名の下に、統制運営が國營の如くに装ふのである。

生産的價格市場の獨占は、樺太廳の森林保護改革案の如き、又滿洲の合同伐採の如き、指名拂下げをし、或は高くし、或は安くし、而して中小經營者を壓迫して獨占するのである。大産業生産に重點を置いて、販配市場の獨占、生産の獨占せざる限り中小生産者の機能が有力を占めて、生産界に與へるものであることは間違ひはない。今や産業組合段階の機能者と見ることの出来る製紙聯合會は、生産機關設備の知識、技術、紙質の研究、消費の洞察、經營に對する社會層等々の建設的内面の組合であつて、獨占して自己を擁護する組合ではない。販配市場をも、生産市場をも脅かす搾取容器組合ではない。

彼等が組合に於て申合せによりて、獨占的木材の購入惜しみ、又交易市場へ販納惜しみを目論んだとしても、

彼等はそれによりて益する何程もないであらう。反つて強化につれて、生産の操業に支障を來たし、勞働力の餘裕力が現はれ、以て依つて、生産會社自體の蓄財價值部分が減少するであらうし、又その限度も期間的永續するとせば、勞働時間の短縮する外なくなるので、勞働生保料の低下を餘儀なくせしめなくてはならなくなるであらう。と共に、非日本的、非人類的、非國家的の存在者として見做されるのである。

かゝる如くに生産組織即ち配分組織の上層段階にありても、又、下層段階にありても、職業別同業組合又は産業組合、商業組合、工業組合及卸人、小販り人の等しくそれが、獨占的とは成り得ないのである。

規格の統一

物品の優劣、急不急の公益優先物資、それと同時に生産の設備、物品相互の文化的度合、物品相互の、より經濟的價値の差等のことより、交易配分所を通じて、生産界へ向つて統制し、同時に配分界へ向つて統制するといふことも、又、かゝる公益優先政策、國民の副利の爲めの政策の外に、物品そのものの生産種別に對する規格の統一といふことが考慮される。

規格の統一されるといふことに依りて、第一に富の蓄積に與かるといふこと、第二には、交易が平易にして極めて簡單だといふこと、第三には、馴慣に依る生産の迅速、第四には、生産者の自主的生産物に對する、より優秀化といふことについて、より判るであらう。大半の物品は、規格雜種として市場に謳歌されて複雑化された文

化が、此の規格の單純化によりて、より交易の圓滑、より不退轉の文化、より必要品の迅速、より優秀品の顯現而して國力、國富を先行せしめるのである。言換へれば、文明の進展が複雑にして立體化しなかつた低調廣範の文化が、即ち低い同じのレベルを使用機能物品としてさ迷ふてゐた物品は、同じ機能存在價值物品相互の相剋世界であつたのである。果ては相互に驅逐し合ひ、泥沼に掘込まれるが如くの悲惨な浮目に遇ひ、倉庫に荷嵩高に生産者は溜息をする。失業者は益々飢に泣くものが續出するといふことになつたのである。いざ必要時代になると不急品ばかりの生産人と、生産設備で無統制振りを發露し、擴がりの無邊にのみ文化せしめ様としてゐるのである。

規格の統一が進むにつれて、必要物品と不必要物品との前後は明かになるし、擴がりの複雑化を深高の尖銳、優逸、立體的高度化に前進する。即ち中に廣く進む範圍だけ、前進に向ふことである。例へば、同一用途に使用せんとする器具が、その性質も同一であり、容量も同一でありながら、色彩に又は形狀に異なることにより、一揃ひ一組とした場合の偏傷が、一揃ひ共に無價値無使用にされることそれである。それは一方に於ては愚騃な生産經濟地位をさ迷ふてゐるものの福音の如きに似たれども、一方に於ては、その愚騃な生産地位者の過去の勞働力により出來た生産物の全捨象價値を有用ならしめず、その一部のみを活用ならしめたに過ぎず、過去の蓄積された勞働の大半は、無游に歸せしめた同一に見做されることになる。又、かゝる日常使用物品を單純なる色彩如きによつて複雑を求めて、再び生産勞働の従事は生産者への失業の憂なからしめるものであるが、國家的

見地、文化の發達の速度からしても大なる不必要労働の捨象であるといふことに結論されるのである。

なぜならば、彼等の労働力の總量は、彼等の生産物を消費する消費者の消費量と等しき程度を中心として常に加不足されるのではあるが、彼等がその労働力限度が超過の節は、労働力捨象時間を短縮するか、否労働時間の短縮問題は、彼等の生保生活料を生産上より捻出可能なるや否やの問題を考慮に入れるから、短縮は不加能なものであるから、彼等の労働力の總量の一部分は他の職能地域に轉嫁することを以て、依つて、それ等生産と消費との調和及び蓄財價値を累積することが出来やう。斯る様な重複生産者を、他に轉嫁する方法については、物品の生産の急不念、量の増産問題によつて、配分組織即ち生産組織上の交易配分所に於て、指導調和政策に依つて統制さる可きであるが、彼等は自らかゝることの國家的或は富の形成的意識せずして轉職せらる。見地からして彼等は重複化したる生産物が、その一部の損傷によりて、同一用途の物品の、第一回目生産に失敗し、第二回目生産に失敗し、したが如くと或る意味に於ては共通し、合ふといふ、労働の無能力的價値觀念にて検討されるのである。

而して、それは將來の餘裕労働力又は産鑛金に従事することの可能となるか、將亦高度國防的生產設備擴大の折は、それ等労働に従事することの可能となるか、將亦、高度國防的生產設備擴大の折は、その労働に従事することによりて、國家的統制政策の、より圓滑に與からしめる。即ち過去は、貴金屬に置き換へべき労働の可能なる労働力及び時間を無駄に使用してゐるといふことになるし、公益の爲めに、優先的生產すべき生産物に對す

る労働力に與せしめないといふことである。

そこで過去の労働力の結晶を道端の小石の如くに捨てない様に、言換へれば、重複な生産物品或は不念の生産物を生産して労働力を虚空にしない様に、規格の統一をも合せて統制の範圍に入るのである。同一物品を、より大量に生産又は加工して、雜種を單純化することによりて、馴致的に、時間的に、機關の設備に、能率増進に、技術のより發達に、現はれて、直接に生産者の爲めに値ひするのである。又、一方に於て規格の統一が及ぼす消費者へは、華美贅澤三昧が限度が超過せずして消費節約に價する様な必然的效果あらしめる。

尙ほ労働力の餘裕力が婦女子を労働界から家庭に入らしめ且つ又、經濟的資本人格より遠離して、國民として人としての婦人に歸へらしめる。又少年労働者を學徒に入らしめ、より文明、より人格の水準能力者を第二の國民、人類の貢獻者として養成せしめらる。

第二十章 配給組織の制度化

概

念

配給組織の制度化については、交易制度の場に於て可成り織り込んで説明したと思ふのであるが、尙ほ組織的

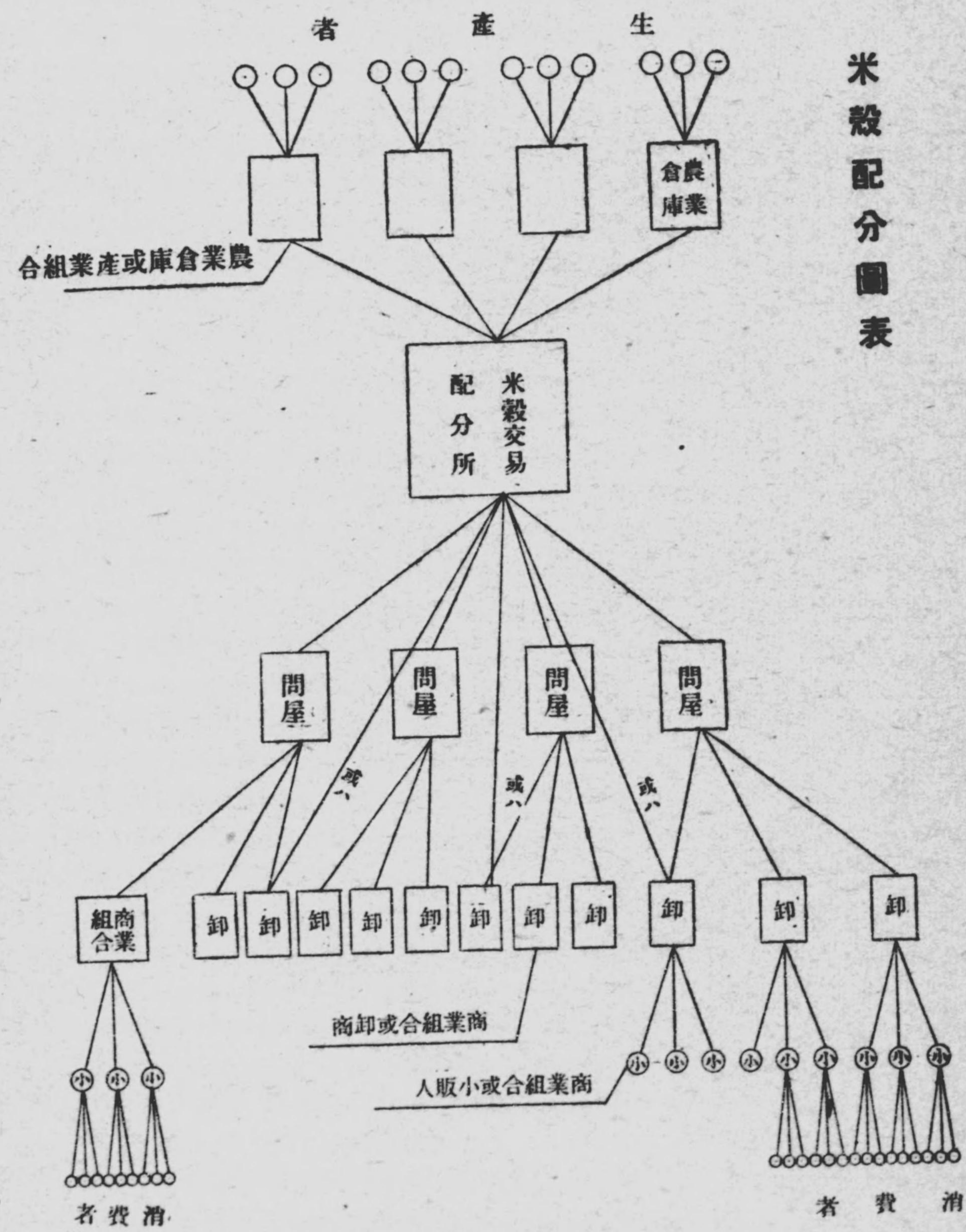
の表面から一べつして見やう。先づ交易配分所を中心とするピラミット形状の垂直、それを幾重にも取巻く處の水平的段階形状を以つて依つて配分するのである。生産者が消費者へ直接に配給されるといふことの不可能なることは技術的にも時間的にも、不可能であることが今更謀々として述ぶる必要もなく、依つて同一物品は同一物品経路の流通は市場道路を通過することによりて可能であるからである。

市場道路によりてのみ可能とすることは即ち之が大なる包容力の組織であるといふことがいへるのである。生産組織と表裏の整正的確であるといふこと、嚴密な明確さが暗示されるといふこと、哲理が飽迄科學的であるといふことの定結さからであり、道路の内部通行に限り自由であるといふことである。市場道路を通過して、交易を中心に、生産が自主的擴大され、配分は統制よろしく消費者へ往く。例へば、農家に距離的接近する郊外のサラリーマンや諸小販り人は、且つて、飯米を農家に求めてゐる馬鹿はなく、近きに有つ農家の兄より飯米を求めらる弟もなく、米は米穀市場を道路として通過して而して彼等の手に飯米となるのである。

自給自足といふことは小さき範圍に區切らるる限り、組織は不可能であり、その個々の精神は個人的擁護に到るものである。一々直接に個々の消費者が生産者或は生産工場及び中央交易所に於ける經營者に見識りの者があり得たとて、直接取引きすることはない。若しも出來得たとしても、組織的ではなく、包容的ではなく又整正的確でもなく、個人主義であり、利己主義である。

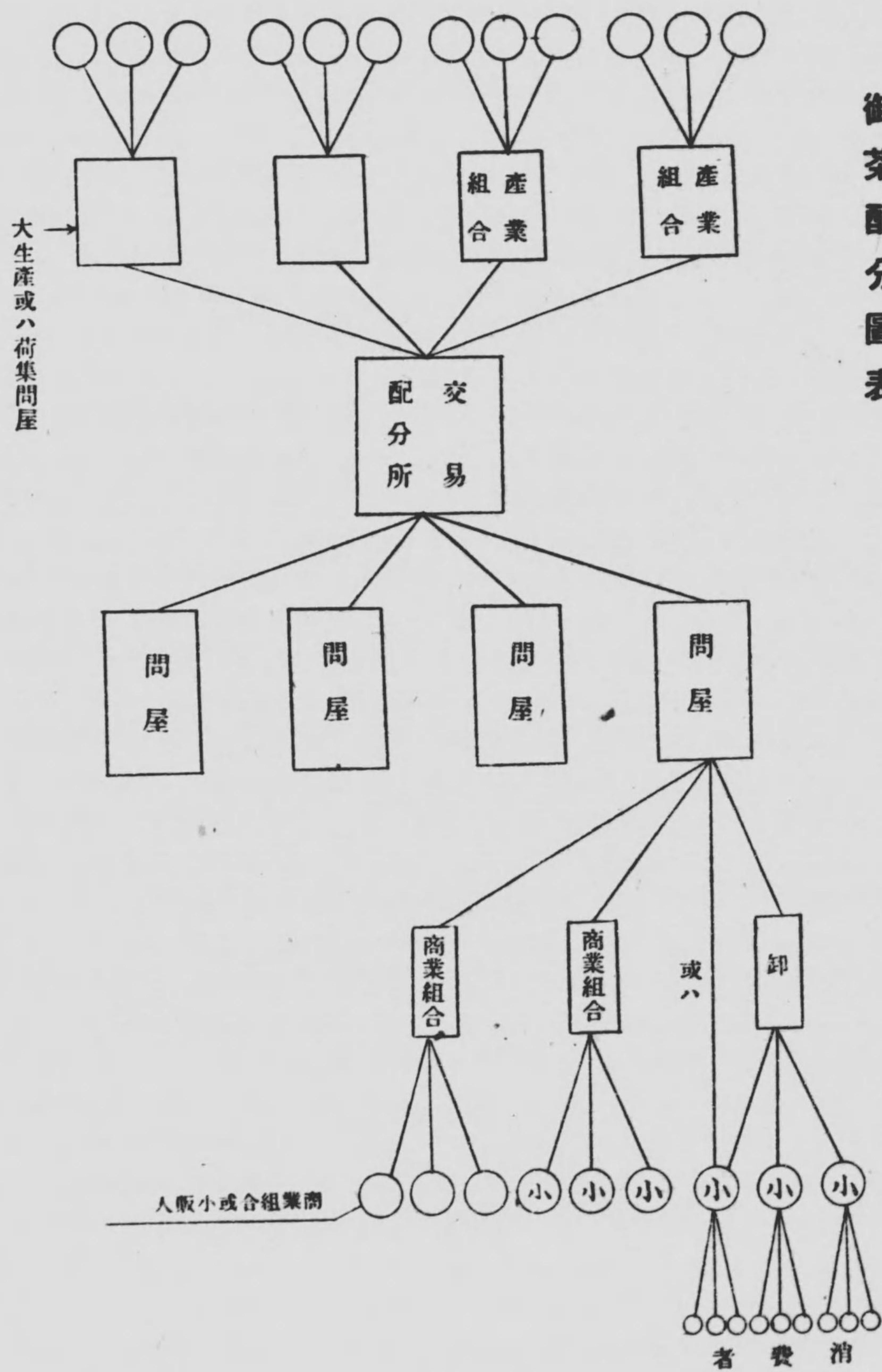
生産組織上の生産者段階によつて機能し、配分組織上の配分段階によつて最後の目的が達せらる。門戸的必要

表圖給配



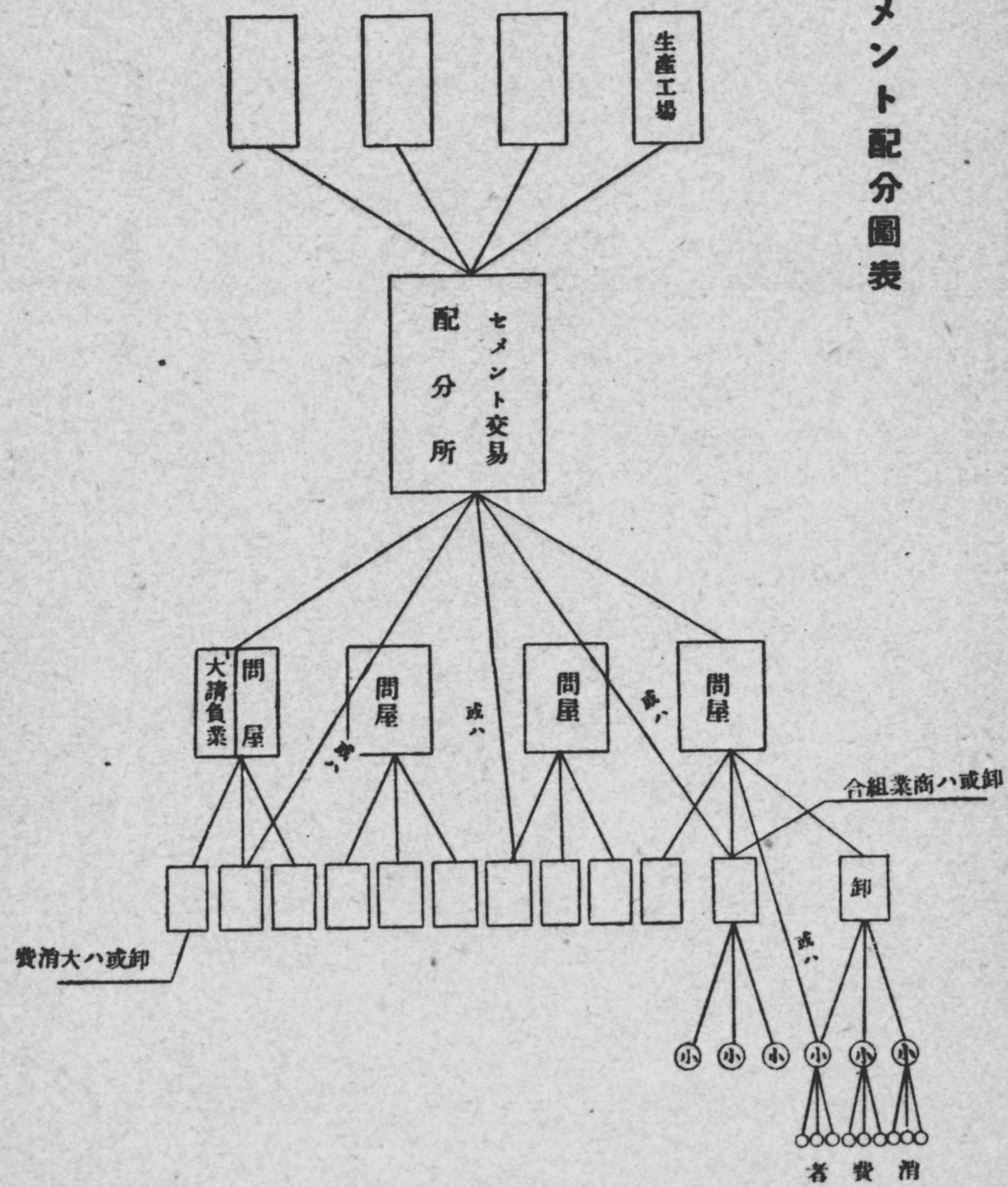
米穀配分圖表

生産者



御茶配分圖表

セメント配分圖表



の消費量者に相當せしめる様に、手數なることの包装や、發送や、勞力の費用と時間的問題と技術的問題とを容易ならしめられる。二つには物品を生産者と消費者とを最も距離的にも合理的にし、若し市場より距離的に遠い場合に見る時間の關係によりて起る腐敗の懼れ及手入れの按配、食料品等の場合には、一々直接消費者に必然的動作に依つて便宜に配分が出來得るといふことである。茲に、各自己受持ちの段階的組織の必要が文化に伴ふて立體化するのである。

交易配分所に於ては、生産と消費の距離的關係から時間的問題を知ることが出來るから、存在せる物品の多過を知ることが出來、依つて以て、生産に對する云々、消費に對する云々をも潤澤に供する自動的統制の調節が出來る。而して消費者は何時でも必要に應じて彼れの附近の店舗から、需要を充たすことが出來る。

ピラミット形狀に於ける小經營配人は、最も下層にして直接の消費者に接続してゐるものであつて、多數を算するに到るであらうけれども、いづくんぞ、門戶的の消費者の數には遠く及ぶものではない。要は、生産者が生産物量の配分に當り、餘りにも區域の擴大から距離に遠く、消費者の區分必要量も餘りに僅少であるといふこと、技術的に配分の問題から、勞務の手數時間からして、各自の擔任的配分範圍が地理的にも分量の決定不可能なりといふことからである。その結果は上下垂直の組織となつて表はれるのである。即ち生産者より物品は運搬者及び事務者によつて消費者へ到るといふ市場道路が、組織形成せられるのである。例へば先代より百萬圓の財産を受繼いだその人は、彼れは先づ運搬人に過ぎないといふことが浮んでくる。彼れは百萬圓の荷物を大きな

車に乗せて貰つて後代に渡すのに、彼れは今に到るまでその車上の荷物を落さないでゐたので又、彼れは果して大汗冷斗してゐないかである。それが落荷したとて、以上に積重ねられたとて、茲では損益問題を取扱ふものではないから、先代より後代へ運搬する運搬人に過ぎないのであると等しく、生産者が消費者へ直接供給に當り代理として、自己の損益問題を別として見れば、彼れ等は地理的、機能的の異なる運搬人に過ぎないのである。それは、鐵道貨車、貨物自動車等の眞の運送労働者ではない處の運送配分支配するものとしてのみ見られる。圖表参照の如く、商業組合と、或は卸人と又は商業組合と小販人とが、その同一水平段階に存在しても、又は存在しなくても、生産物と消費者との關聯は敢て異なるものではないが、存在して機能發揮することによりて迅速に生産組織、配分組織として表裏を具現化する。

以上を以て述べた筆者は、一國の産業生産組織の全貌と配分組織との内面に機能する交易組織とを見たのである。與へられた制度の道と幅と高さとの自由に依つて、自主的に機能せしむ可く統制組織の形成を以て、經濟組織と爲すべきことは今更諫々することはない。無數の企業及び生産の總てが必然的に、その一つの内部にあつてこそ、管理的經營であり得るけれども、その外部との交渉關係は、何れも獨立自主の單位である。だから最も活動力と獨創力とに富んだ分子であり、その分子の組織であり、組織内に潛匿して機能し通過することによりて、生産の擴大、富の蓄積、景氣の循環、運輸設備の擴大による單純化、高度の國防を最もより良く企劃に便宜ならしむるのである。それでゐて配分商業の技術的勞働と、智的及び體育的勞働との區分けする機能の位置、方向を明示し、投機者と現物配分業者との機能も明白ならしめる。而して現物生産者或は現物取扱業者のみに依つて交易される配分所となるのである。言換へれば空販納は出來ない。最も恐れる處の投機が此の組織内より失せ遠ざかるのである。投機者は配購を行ふけれども、現物の必要を認めてはゐない。のみならず、彼等は生産會社の投資に關しても、經營に如何様な矛盾があり得やうとも關心を持たない。自己に與へらる可き配當の請求權のみを評價し、制覆せんとする目的であるから、人類の爲め、國家の爲め、直接生産會社の爲めなどは斷じて考へやしない。より大きく搾取して配當してくれるのみを待期してゐる利潤主義者たる株主よりも、卑劣極まる之等は、生産組織、配分組織を通じて交易が出來得なくなるのである。

労働者は生命的固有價值たる使用價值によりて所得し、物資は自己の化學的或は物理的固有價值使用によりて

所得し、不生産人は、他人の爲めに、定額報酬を受けて勤勞を提供する僕婢となつて、運搬配給機械と化すことによりて所得を得るのである。その所得は交易配分所に依つて現はれるのであるが、組織を通過することによりて、交易が定結されるのである。配分者は自動的に一定の軌道を往復することによりて組織内に潜匿して平易に配分が可能なのである。

自主的單位の株式會社

株式會社は小人数の大株主によりて、大なる金權勢力の下に經營者たる支配權を成立するものではない。株主は大小の出資に不拘、可變資産家として、投資贊助者として可變資産所有者としてのみに留まる。又、最初の企業經營の發起人にして同時に株主たるものありては、現在は經營者と見做し得られやうが、それは發起人と經營者と株主とは別離して見るべきものである。例へば一國の政治組織に於て、選出される國務大臣は、それが政黨員たるが故ではない。又、彼れは實業家たるが故ではない。選出されたる其の大臣は、政治に對して大なる識見と、技術的才能と、綜合的洞察力を有し、處置的氣力を有し、推行的手腕を有する處の大乗達見者たるが故にのみ、自らその責に任じて補弼し翼賛するのである。と等しく、企業會社に於ても、重役を選定し、經營者を推薦又は互選するについて、彼れが、會社に對する出資可變資産家として、大株主たるが故に重役たり、經營者たる資格のものではない。彼れがその會社企業に對し、事業の興味、經營的技術、社會と會社との對立關係及び國

家と事業との關係、人類と事業物品との關係に於ける自主的洞察等の識見を有し、自らその職責を擔ふだけの力量及び指導的人格の具備するが故にのみ重役たり經營者たるものである。彼れは可變資産の所有者たるが故に經營者或は重役たるものではなくて、彼れ自ら他に譲らぬ處の達見人格者たる不變資産家たるが故に可とされるのである。その事業の技術的經營に於て、或は處置的に於て識らざる可からざることを知り、成さざる可からざることを爲し得るからである。

可變資産家は株主として所有者たるを得、不變資産家は勞働によりて經營者たるを得るのである。要は所有者と經營者の二區分によりて株式組織は分析せられ、大株主重役主義は搾取時代に於てのみ認めらる可き遺物である。けだし大株にして重役又は經營者たるものは、所有者にして經營者たる處の資格ある不變資産家にして一方可變資産家として成立つ兩者を司るものである。株主は所有者にして、經營者は不變資産家であることは、株主は金融家であつて、企業會社は借主といふものではない、株主が金融家として留るとすれば、株主は所有者としての資格及び事業の内面に賛意者として働く楽しみ、聲援の資格を失ふものであつて、株主が可變資産家として事業の賛意、勞働者は不變資産家として事業業務の賛意が成り立つ、處の吾が八紘一字の理念經濟にもどる。

株式が金融的存在として成り立つ場合には、事業に對する投資になりやしないし、生産に對する自主的精神の發路として見做されない。吾が天照主義經濟理念の下にありては、かゝる様に生産に賛意のない金融としての成り立つものではない。生産的賛意の投資を以て所有者の立場を採るものにして、獨り經營者とのみ別離される

處のものにして、可變資産と不變資産との機能と觀念と資格とは、左右並行又は平等である。上下又は勞資の對立たるものではない處の水平的段階のものである。故に既に述べて來たでもあらう處の新生産によりて生じた會社の蓄財價值は、超過分たる勞働蓄財價值にプラスの可變資産の超過蓄財價值の兩者に依つて生じたものとして兩者に分配されることになる。言換へれば、會社の利益が株主と勞働者との兩者によりて分配されるのである。分配當については、會社そのものが人格的單一獨立して、經營者及び不變資産勞働者へと、一方株主へと各資産に對する配當されるのである。もつと言換へれば可變資産家は、彼れの出資の度合に對する資産の超過使役價值を受取り、不變資産家は彼れの勞働せし約元的時間の超過時間價值を受取るのである。かゝる兩者は水準せる地位にありて分配されるのである。

此の場合に於て、經營者及び經營者の指導の下に勞働する勞働者の爲す處は、悉く之れ自己の責任に歸着するものであつて、彼れの誠實、勤勉、努力、才能、識見、人格の美德優性から來る加速的廻轉を以て超過蓄財價值或は延長時間により蓄財部分の出現は悉く彼れ自ら得る處の、やがては亦彼れ自身の直接分配される處の、それが、會社の利益となつて現はれてくるのである。彼れの怠惰、放慢、愚鈍、無責任、淺薄から來る業務の不圓滑時間的損失より現はれる會社の損失も、それがやがて彼れ自ら負擔すべき自己の缺損、事實に於て負擔するものにあらざるも彼等の配當（厚生金）の上に現はれ、責は無配當として擔はねばならなくなる。彼等は如何程でも努力すればする程、超過勞働時間的約元によつて蓄財價值が廣らす利益は、やがて、彼れの與かる會社の利益と

なつて現はれるし、又、會社に損害を與へた場合には、彼れ自ら損害を被る自殺的行爲として會社の缺損となつて現はれる事といふ結果に外ならない。

それは、吾が天照主義經濟の下に組織せられたる株式會社なるが故にであるが、從前の搾取主義時代の遺物を誇る株式會社の經濟であれば、勞働者に對し規定的賃銀を扶持として與へて、時間的無限に勞働を強制し蓄財價值部分は株主のみの領域として金權萬能を誇つたのである。經營者は株主なるが故に經營者であり、支配者であり、所有者であり、而して所有者たり經營者たるが故に、勞働奉仕なくては利益部分の増大を期せられないことを慮るのであるから、彼れ等は勞働者に扶持を與へるにつれても、充分に價值を受取らないでは與へやうとはしない。やがて所有者の手によりてのみ分配される處の會社の利益を現はさんと搾取せんが爲めに、種々方法を欺瞞して勞働者を購入したのであるから、可變資産は勞働たる不變資産の對敵上位に列し、二元論の一端を現はす從來のものとは根幹から相異なるものである。又一方不變資産家たる經營者或は不變資産家たる勞働者にありては、彼れ等が如何に努力すればとて夫れによりて現はれる會社の利益は所有者たる株主へのみ持ち去られるを嘆じ、又如何に彼等は、會社に損害を與へたとて、彼れ自身直接に何等損害をも蒙るものではないといふことを知る處の扶持制度なるが故に、反つて彼等は會社に損害を與へることによりて與つて、自己自身に私益する様なことのあらんことを考へやうとする。例へば過激勞働をせぬ爲めに、缺勤日が少く、出勤の持續より勞働日の勤務可能となり、又、自己の勞働上に於て使用する衣服、靴又は食料の期間的耐久といふことについて益しやうと

する。彼等は喜んで會社の損害を考へなくても、自ら自己の擁護に力めることは間違ひはない。恒に勞資對立の二元になつて日月が進み、常に毎に、協調説、妥協、方法、欺瞞のみに依つて維持持續されねばならない缺點が生じてゐるが、吾が天照主義經濟の組織に於ては、絶対に對立等は現はれやしない。

即ち資本家は人間そのものの經濟立脚に名づけられたる名目として經濟的意義の中に單一獨立して存在するに反して、搾取資本家は二元の一端に支配者として存立し、勞働力の搾取を、より欺瞞的金額により受け取らんとするのである。例へば精勤賞を與へて、或は業務的品行方正を賞してとか、將亦、本給を小さくして賞與とかの名稱の下にである。第一本給にて生活出來ないではないか。之等の賞状はお前が一番よく我が搾取資本家の爲めに、從順にして、より長時間無償にて奉仕してくれた馬鹿な奴だといふ書状であるけれども、それを知らない勞働者は二元の一端にありて、欺瞞方法を見計つたり、世渡り上手で賃金を受取らんとカモフラージュするのである。

要は、常に、勞資二元であつて、絶対に相容れない理論の下に組織せられるのであるから、是非なき協調、社會政策、保護救済によりて爲さずして秩序を保たれない闘争世界の過去は完全に抹消されるのである。天照主義理念の下に於ける組織にありては、勞資は敢て「協調」の必要はない。即ち株主たりとも勞働者たりとも、事業と自己との利害關係は絶縁せられてゐないのである。

不變資産家は經營勞働者となりて、又は肉體的勞働者となりて、企業所の誠實なる財産受託者であり財産保護

者でもある。可變資産家は經營に對する賛意者として出資せるものに過ぎないことになるのである。故に、不變資産家は、自己の勞働を有つて自己の生保料以外の蓄財價値の分配を受け取らんとするから、事務の滯滞又は不正行爲による利益金の減少に先行するといふ様な心外なことはあり得ることとされないから、若し株主經營事業報告の際に於て、能率の縮少或は勞働時間の短縮問題が唱へられやうとも、勞働者が經營参加の不變資産家として、投資賛意者として、直ちにそれが、賛成をするや否やは疑問符である。

彼等株主も、勞働者のより長時間勞働又は、より激烈なる加速的勞働を以て所有者への配當を、より増大せしめてくれることを嘆願し且つ喜びとするし、勞働者も自己に採つては最も抵抗の少い最も愉快なる、最も安全なる限度としての勞働時間の延長能率増進によりて、會社の利益を謀りて、やがては自己に歸する喜びを得んとすることは間違ひはない、株式會社の經營に對しては、不變資産及び可變資産が廣義解釋の下に立つ資産として同格地位であり、此の資産が勞働捨象價値及び物資使役價値の同地位である故を以て、不變資産と名づけるもの對勞働者と名づけるものとは同一物を指す處の、地位の異なる名稱であるから、勞資は垂直的に一本であり、可變資産對物資の使役も、やはり勞資一本と同意義の垂直的一本であり、資産同志たる不變資産と可變資産とは平衡的水準の一本であり、之等凡てが廣義解釋の下に人間資本の一基幹から成る一元的のものであることが現はれてくる。

是の如き株式會社の組織の優逸的の發達は、自然的に可變資産（從來の資本）の金權王座の支配力によつて、

労働購入制度（事實は扶持）たるものが、衰退せられて、搾取は皆無となり、生産精神が旺盛となり、労働精神が優越し、大和魂、八紘一宇の具現が、個々の細胞に顯はれてくる。それは大經營たりとも小經營たりとも、法人たりとも個々たりとも、不變ざるものである。既にして搾取主義が過度の衰退を生んで終りを遂げ、新しく正しく天照主義經濟の功績によつてのみ人類の永遠的經濟の安當性及びその組織の巧用統制に於てのみ、人類普遍の上に國家の經濟的安定されるものである。

株式會社事業のその危険負擔の責任については、株主たるものみに歸屬する譯のものではなく、可變資産家たる株主と、不變資産家たる労働者の二者に依つて一元的廣義資本家にその負擔が現はれてくるのである。即ち會社が缺損として負擔すべしといふことである。けれど、収益の分配に於ては、一者二つに案分せらる可きであるけれども、一方は株主配當として、一方は厚生金の下に蓄財價值が分配されるのである。決算尻に於て、収益も損失も無い收支零なる場合にありては、可變資産も無配當として事足りるといふことに至る譯である。若し損失として現はれたる場合には、不變資産は無配當（厚生金）により不平なく會社の將來に従事することであらうけれども、言換へれば、不變資産はその儘にして（生活保證料を受取つたのみ）労働資産を賛意提出從業せしめることと成すし、可變資産家は將來に於て増大なる配當の可能する様に願ふであらうことは疑はれない。不變資産家も、細心の注意の下に努力して將來の爲めに親しむことを念願する。以て可變資産家と不變資産家との事業對視眼が一致するのである。又、此の場合に於ける缺損の爲めに株主配當及び厚生金が與へられないこと

爲めに考慮して、過去に積立てを以てその用としても、經營方法とし差支へないことである。蓋し之は、只便法であつて、學理そのものではない。最早や經營の經濟的觀念は株式のみに限らず、從來の資本家即ち吾が可變資産家のみ利己的所得場所ではなく、所産でもなく、搾取的用器でもない。斯る自主的單位の企業株式會社の内容は、その事業として、國家的の社會組織に位置して機能し、經營は經營として獨立性を確保する。労働者は労働者として自身の爲めに、不變資産の有主たる廣義資本家として所得分配される經營となり、而して事業は事業そのもの爲めに、社會的に普遍安當性となる。又、株主は株主の爲めに、可變資産家となるのである。それが所得の分配するや否や、又、大小に不拘、可變資産の持主たる廣義資本家の爲めに、物資の使用價值たらしむ可く可變資産家となり得るのである。經營内に於ては彼等兩者は彼等自己の爲めに労働し且つ出資するのである。

しかしてこそ、そこに初めて人類の生活權確認が經濟學的に認容され、確認の爲めに且つ永久化の爲めに、事業は事業として現はれ、經營は人類生活保證の爲めに經營されるとして現はれ、遂ひに事業は事業の爲めにとなつて決行されるのである。今や新しき經營者（不變資産家）も所有主（可變資産家）も最早や事業の我物顔をするといふことがない。事業は人間の爲めに事業するものとして存在する事業であつて、單に株式組織の爲めにのみ存在する事業でもない。従つて之を主宰し、之を保存し、之を指導して經營してゐる經營者は、又は労働從業者は、單なる株式會社の雇傭人でもないのである。彼等は彼等兩者の爲めに事業するといふ個々の生活經濟より

外に出でて見れば、事業は人類生活の永久普遍の爲めに、事業するといふことを念ひ、人種的、國民的範圍の國家統制一單位とした内部の、自主的單位の經營事業として關聯し、個々の單位を活かして國家が生きているのである。故に國家の爲めに事業し、國家の爲めに經營し、國家の爲めに出資し、國家の爲めに労働するといふことに結論されるのである。

彼等二者共に人類の爲めに普遍安當性として活し、國家の爲めに事業し、事業の爲めに事業し、事業の爲めに經營するものであつて、一者の爲めのものではない。經營者は一方に於ては一般株主よりの資産の轉化財産物の管理受託者であり、他方に於ては、一般従業員の教師であり、指導者であり、人類生活の利益捻出擁護者でもある。

斯くして不變資産家は可變資産家と同格となり、物資に轉化せしめてその使用價值を提出する可變資産家と等しい處の、労働者に轉化せしめてその價值を賛意提出する不變資産家となるのである。故を以て労働者は可變資産家の従僕ではなく、彼等は彼等自己の従僕である。言換へれば労働者は自己不變資産家の従僕であり、出資せる物資は可變資産家の従僕である。此の従僕は公明正大なる働きの下に於て、公明正大なる結果を豫想し、自己の行動によつて結果が各自に比例される。而して結果として現はれた蓄財價值の分配は、その出資額の大小に分配されるが、大小分配の如何は事業成否の結果であり、従つて事業成否とは尺度の現はれとして浮ぶ。

事業の成否は勞資の能くすることの程度によりて、尺度的に提供するものであるから、兩者共に此の尺度の結

果に依つて配當部分の増減が免れんのである。從來の如き賞與は不變資産家の爲めに償ひとして、生産部分から與へられたものではなくて、可變資産家の爲めに労働者の不満の聲の浪慢に與へられたものであるが、今や、經營部門に現はれる利益の大小の比較によつて毎年決せられるのである。

若し可變資産家に對して配當制限を以て、事業成否の尺度を株主にのみ定限されんか、残れる利益金は不變資産家の厚生金に振替へられやうとも將亦經營部内に積立てられやうとも、生産事業の趣味、生産擴大の阻止としては何等變化のあるものではない。なんとなれば、配當の尺度が一定せぬ間は、日常の労働者が労働するに對する結果の趣味は、大なることを楽しみとすることであるし、又、一定せる場合には可變資産家に及ぼす投資精神、生産賛意精神は縮小され稀薄化される恐れが充分である。依つて以て不變資産化の労働價值具現の必要も、その限度が稀薄になり、引いては失業者の群が續出せんとするからである。そこに配當の制限、労働者に對する厚生金に對する一定額制限を喜ばないのである。故に、蓄財部分の大小に依つて比較して、配當及厚生金が分配される永久組織である。配當制限それは政治上に於ける一時的現象の期間的對策問題である可き筈である。

第二十一章 金融組織統制

概 念

運営又は運行の國營といふことは、單なる營業といふものではない。國家が一つの組織を制度化してその組織なり制度なりを通じて、種々の統制方法を行ふ、組織目的の機能を運行する。それを國家が營む（經濟行政）のだ。之を國營といふ。だから國家が個人の立場を有つ處の主體となつて、營業するとか、官營とか、專販とかといふ生産、配分、消費といふ經濟範疇に入るものをいふのではない。一例せば鐵道省の如きは國家を主體とする經濟的立場を採つた個人であつて、茲で謂はんとする國營（國家の運營）なるものではなく、之ぞ官省の營業即ち官營である。言換へれば國家そのものの運營（經濟奉行事務）ではなく、國家の機關所たる政府（行政府）の一部たる鐵道省（經濟界の自主的單位）の營業である。

國營とは、治安、安寧を機關を通じて日夜奉行することが國の營みである、利益社會の目的ではなく、公益社會の目的である。經濟組織の上に、又は金融組織の上に制度を通じて運行することを謂ふのであつて、國家目的の爲めに、即ち國民の爲めに、經濟目的を奉行するといふことで、國家自身が國民個々の生産的、配分的、運搬

的なる經濟的役割を演じて、新生産の分前即ち收獲利益を得んとするものではない。國營即ち國家が運行を支配するといふことで、生産組織、配分組織、金融組織の各經濟機關を通じて國民個々に間接的に、或は法規的に、直接的に、行政支配するといふことである。言換へれば統制をするといふことになるのであるが、國家が國家の直接の爲めに財經すべく収益するものではない。官省の營業又は役人の管理たるものではなく、又役人が直接配分の按配したり、生産の按配したりして役人商賣を指すものではない。それについて、官省又は政府の營業たるものであれば、官省營業といひ、單一獨立せる經濟人格の單位であると思ふべきであるから、それに關する土地、建物、設備の總べては可變資産として名づけられるべきものであつて、可變資産が官有に屬することも將亦、民有に屬することも、性質に於て異なるものではない。茲で謂ふ國營は可變資産家的立場でもなく、經營者でもない。省又は官に於て資産家的立場の利益化さる可き經營、之が他の方面から見ても國民便宜の爲めであらうとも、經濟的範疇に廣義解釋されるものであれば、雇員はポイントマンでも官吏として名づけられない。彼れは行政的奉行政機能する國家の官吏ではない。又國家の目的の爲めに運營の任に衝つてゐるものでもない。鐵道營業者たる經營者の從順なる不變資産家に過ぎぬ。

國家が個々の民の自主的經濟の自由の範圍を組織として統制運營するといふことは、可變資産家の如くに國家自己の所有に歸せしめて經營するものではないから、生産組織上の最上點と配分組織上の最上點の織りの交易機關所に於て、運營機能せしめるといふことであるが、之ぞ國家の運營行事に奉行するもので、不變資産家ではな

く官吏として名づけられないまでも、經濟範疇を司る經濟人ではない。

それと等しく金融界の運營統制についても、可變資産家としての立場を採る銀行と、それに従事する不變資産家と、國家の金融運營の運行人と、それ等の機關所とはそれ／＼異なることを明かにしておかねばならぬ。

先づ金融統制制度化も交易市場に於て説明した如くに、預金組織、貸付組織その中を通ずる金融組織として、水平的段階と垂直的段階とを以て織り成すといふことによりて、機關所の役割を果たし、より良く運營統制されるのである。小口金融には各部落信用組合の相互水平的段階、その上段の聯署として縣信聯段階、次ぎは全信聯國家預金銀行とピラミット形狀を以て組織形態を採るのである。同垂直を以て機能運營道とする。此の場合國家預金銀行は金融機關の高度位置にありて、國民の直接有益の爲めに、預金、貸付の金融について、運營統制する機關所で、國家預金銀行は國家自己の収益を得んが爲めに又、省官の収益を得んがための可變資産家としての目的に成立つものではない。假へそれが多少の過剰金として運營の結果に於て現はれやうとも、國家が衆民を相手に經濟行爲をするものでない限り可變資産家ではない。

そこで衆民の不動産及び企業に依つて貸付資産の機能とする勸銀、興銀、農銀等は國家預金銀行より垂直的下位の段階であり、流動資産の貸付資産家として普通銀行は之も、國家預金銀行への連續的垂直の段階であり、相互間は水平的段階者である。水平的段階といふことは、能く述べた通り獨占的地位を得られるといふ一團ではなく、組織範圍に於ける自主的に自由な關聯的なものそれである。

預金銀行より金融される爲めに、借受け主へ通過する紙幣の通過所は、各水平段階の關所であり、關所は道路上の關門に存在する譯で、關所を通過せずして歩行不可能なることと等しく、又繁華なる十字街路に於ける交通の整理箇所と等しい。此の金融各水平段階の關所へ通過する紙幣の運動は、統制の以ての故であつて、管理ではない。十字路の交通整理は交通の統制であつて管理ではないことと同じである。十字路の統制は左側を通行すること、十字路の通過について時間的間歇的、諸車路、歩行路に統制されてゐることは十字路の交通整理は交通の管理ではないと同じ處の機能機關所である。歩行者は規定せられた範圍の道路と、十字路に依つて、自主的自由に歩行するものであつて、彼等歩行者は自由であるとは言へ、道路以外の幅に於て歩行は不可能であるし、且又、十字路以外に於て方向の交錯を指針することが出来ぬ。

即ち紙幣は、衆民の自主的意志の下に自由に流動されるとは言へ、金融道路なる預金通路を通過せずして預金は不可能であり、又貸付紙幣も道路を通過せずして、關所の機關を通らずして歩行出来ぬ。即ち十字路の如き自由の方向を整理するに過ぎない所の十字路と等しい金融機關所を通過せずして、金融運行が出来ないのである。それは他の物品が生産組織上より配分組織上の内面に機能する交易機關所を通過せずして物動しない如くに、金融機關所を通過することによりて歩行者たる紙幣流動が、何等それが拘束も管理も受けなくて統制の幅の内部にて流動するのである。物品としては、生産者から消費者への物品運動行程上にある、諸機能者たる、産業組合、工業組合、農業倉庫、交易配分所、問屋及卸人及び商業組合、小販人及商業組合といふ如うな段階と等しい處の

預金者より國家預金銀行支店及び代理店、國家預金銀行、國家貸付銀行、各種銀行本支店、借主等といふが如きである。

彼等は自由に道路に従つて歩行し、生産者は道路を歩行せずして消費者へ物品を運送すること能はざる様な無意識的に、繰り返す組織内へ運動する物品の流動と同一であり得る。自由にして道路といふ一定の軌道に従つてのみ各水平段階と垂直段階の統制機關所を通過するのである。

預金が貸付けとして轉化するまでは、預金銀行より貸付銀行の手へ移つて、紙幣の流動が再び衆民の手に貸付けられるのである。その過程は、國立銀行預金部の支店、代理店、取扱人の手から中央に集中され、それが貸付となつて、各銀行を通じてピラミット形態組織となつて、預金が貸付に落着くのである。

金融業者の機能

國民が預金とされるものは、既に述べて来た通り、國家預金銀行に利子附紙幣として預け入れる自己の蓄積値である故に、第一に保管所に見受けられる處の預金銀行は、即ち安全性の必至である可きであるといふことである。第二は、機能の圓滑といふことである。預金銀行は經營上に於て預金者の圓滑の機能を缺くことあるとせば、例へば、預金者に対する機能の預入れ及引出しに地理的の場所に、時間的に、事務取扱に、不満不足不圓滑のある場合には、當を得てゐるものではない。此の場合に於ける事務取扱ひ經營の困難なる場合には、市町村の

信組、普通銀行の本支店に於て預金の事務取扱代理せしめることによりて最もよく、大衆の地理的便宜と時間的便宜とを與へて機能の單純化、事務の速進化が可能である。つまり大衆は信組及び普通銀行の窓口に出すことによつてそれが國家預金銀行に預金したことになるのである。

信組は從來と等しく相互扶助目的の持出し合つた金額の融通性が本質であり、普通銀行は貸付爲替手形によりて貸付が本位とするに當り、彼等は可變資産家となりて自己の所有の即ち株式の資産額によりて貸付資産として運轉することが本位たる可きであることは、産業資産や商業資産の可變資産とその増殖機能には何等異なる處がないのである。個々の可變資産家は、自主的立場に於て組織せられたる金融界に關聯しそれ〴〵貸付資産を運轉して、道路の機關所となるのであるが、國家は經濟内の自主的單位になるものではない。經濟以外に立ちて經濟組織の運営に衡るのである。故に大衆より預金せられたる預金は、信組或は普通銀行より順次各々の地位上段機能機關所へ爲替送金せられるのである。

反對に、信組又は普通銀行等の各金融業者も、手持の額高に依つて貸付額不足を生じた場合には、預金銀行より借入れ致して金融の便に應ずる。言換へれば、大衆預金をば自己の手元に有る間に於て、貸付紙幣として、自由で轉化機能せしめることが出来るのである。けれども、彼等が自由に預金一部を貸付けに轉化せしめることは彼等金融業者として機能し且つ所有してゐる可變資産の機能以上の分に相當し、國家預金銀行より借入せし分として充當するのである。彼等は自己の可變資産に相應して限度借入れを以て、金融業者として經營するものであ

る。故に、国立銀行から限度額の借入範囲内は自由に貸付爲替手形に備へることが出来るのである。

故に、反對の現象が生じた場合には、信用組合が手持緩慢になつたり、普通銀行が貸付準備金が緩慢になつた場合には、一時預金銀行へ預金として準備に充てることも出来る。

蓄財を預金なるものに轉化せしめる預金意志の預金者にとりては、最も大きく動くものは安全性である。安全性のない處に預金が出来得ないといふことが預金者の最も考慮に入る事であるから、常に預金者立場に立脚して借り受け主と自ら異なる處は、利子率上に於て問題とするものではない。預金者は預金者であつて、借り受け人ではないといふことである。

預金者の安全性の期待は、国立銀行預金部へ預金することによりて、國民としては何れの保管所へも代へ難き保管所であり、預金部である可きである。大衆は安全性の下に預金されることによりて最も安心率を虚心にするものであつて、個人經營銀行に預金名目たるものによりて貸付け（預金）を爲すが如きは、不安定も甚だしく離脱することの出来ぬものである。普通銀行が如何に大經營にして見ても、何れ變らぬ個人的存在のそしりは免れないのである。大衆の預金目的は、金融貸付け目的ではない。預金は蓄財を意味するものに於てのみ成り立つものであるから、預金は飽迄預金として保管たり安全ならねばならぬ。而して眞に社會の富として立證され得べきであることは、假りに一時的預金にもせよ、保管させんとしたものの代表であるからである。

第二には機能の發展、圓滑といふことである。預金者は自己の蓄財を安全なる預金銀行へ預金保管したことに

よりて、大なる安心率は可能であつても、之を必要に應じて、何時たりとも、支拂使用し得られるか、又は可變資産化せしめられ得るかといふことで、自由意志の下に便宜たらしめるといふことは、国立銀行が貸出部と轉化せざる預金銀行の機能である。然る故に、預金銀行は地理的に國內一ヶ所に於て、門戶的の預金を受入れることの出来るものではない。又、預金者も一つの窓口に於て預金されるものではない。そこで各地に位置する信組、普通銀行等の銀行に於て代辦事務を取扱ひならしめるといふことである。物品の生産と配分との關聯機關と等しい役目をするのである。それは敢て信組及び普通銀行に代辦させずとも他を以て預金銀行支店出張所を設備してもよい。が、国立銀行の經營上より來る問題として、且又、金融に關する金融業者及びその爲替手形の全國的統制運営にその用とすべくに、各金融業者を通じて預金を受け入れ代理せしめて、彼等をして拂渡しと貸付の二者を區別よく金融業者の機能なさしめるといふことが、最も思慮の深い、最も鏡面の如く、最も圓滑な統制可能な組織であるとして、自主的金融界の統制法として現はる。

第三には収益について貸付銀行（金融業者）の手に備へる準備金を游資せしめないといふ點である。言換へれば、信用組合及び普通銀行は自己の貸付資産とする準備金の手元が多い場合には、国立銀行預金部へ預金して置くといふことである。国立銀行へ預金せし金を、何時なりとも貸付準備金として、轉化ならしめ充つるといふことの便宜の上に、利子的游資せしめないといふ貸付銀行の可變資産（貸付）の效用を代謝せしめるといふことからである。貸付銀行は自己の貸付資産額の一部を貸付爲替手形とした場合に、残額は大藏證券或は他の有價

證券により準備せし高を、必要に応じて預金銀行より擔保として、借入れ、或は信用制度の契約高度を超過せざる限度によりて借り受けするといふことによりて、信用組合及び普通銀行は貸付け利率上に機能を發揮するのであるが、緩慢の場合には自ら手元金を保持するよりも、預金銀行に預金して置くといふことによりて、可變資産の利率上に影響が廣らされる。若し國立銀行の預金部が、信組及び普通銀行に於て預金を代辨せずして他に設立したとしたならば、恐らくは、各金融業の可變資産に對する幾分にも與る處はないであらう、預金者の預金が預金銀行へ預金したのであつたが、普通銀行の手に依つて此の銀行の借受け契約限度内は自由に運用されたことであり、此の銀行の手元不用準備が游資なる場合には預金銀行へ預金するのである。然して此の游資の預金額は貸付銀行の準備預金として見做され、常に、貸付資産に轉化せしめる代表であり、彼等貸付各銀行の収益性に大なる立案を下すものである。

金融業者が彼れ自身と支店及出張所に於て取扱つた國立銀行預金部の預金の總量が、自己の借り受け契約以上に現はれた場合には、爲替戻又は現送を以てそれ／＼上段機能の段階機關を経て國立銀行預金部へ集中せらる。通過集中の道程としては、信用組合は縣信へ、縣信から全信へ、全信から國立銀行へといふ様に、一方は普通銀行支店出張所より本店へ、各銀行本店より國立銀行へとピラミット式集中によりて垂直線が機能せらる。

預金銀行（國立銀行）の轉嫁貸出部は、特殊銀行へは利子附爲替手形として貸付けられやうし、普通銀行と全信へは、その週末又は月末の貸付表（國立銀行と全信及び普通銀行の間）に依つて貸付けられる。即ち信組及普

通銀行がそれ／＼限度内によりて日々勝手に預金の一部を借り受けた處の金額を貸付爲替手形に轉化せしめた額の表、言換へれば、大衆より預金銀行代理部として受入れた金額の一部を、貸付けとして大衆に向つて貸付けた額を、國立銀行へ報告明記することによりて貸借決済が行はれ、より貸付普通銀行の安全性を管理され、指導され、監督され、而して金融統制力が獨立して國家に運行されるのである。生産に及ぼす金融、商業及工業に及ぼす金融及びそれ／＼の利率は、國家の金融統制に依つてのみ、國民の經濟を養ひ、國家の財經力を養ふものであつて、銀行の經營が大資本主義になれば、金融統制が出来るものではなく、より搾取、より財閥の保護となるより他はない。金融統制それは國家に於て運行して國民の爲め國家公益の増大の爲めに運行することであつて、大經營を指すもの、合同經營を指すものでは萬々ない。金融統制に依つて律せられたる將來は、諸銀行の金融は上記の如くに運行の妙に到らしめし、生命保險及び各金融目的のものも、組織上に制度化して聯繼が採られるから、全國の金融は即ち國家の運営主力の中にて統制されるから、單純なるインフレン等は、萬々案することがなく、國家の信用力は治安に對するそれと同一視される。

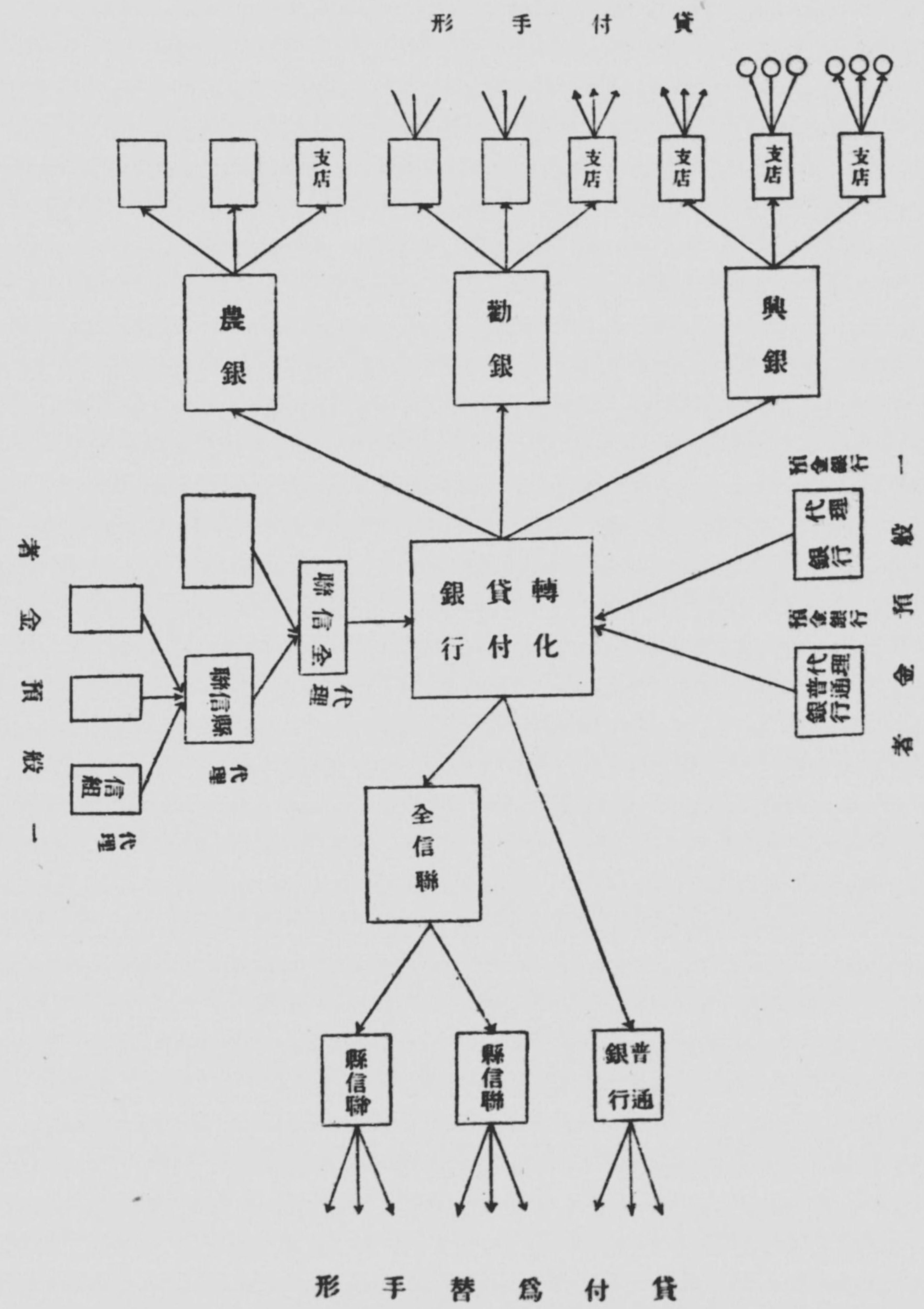
普通銀行が貸付といふ點について、不動産及び動産を擔保として貸付けられやうとも、企業に對する信用爲替手形を以て貸付けられやうとも、敢へて問題として大きく取立てる必要はない。けれども、勸銀、農銀、興銀、正銀等の特殊の貸付け者が可能として存在する限り、普通銀行は從來の金融業者の機能として差支へないことである。又、彼れ等は幾分に特殊的立場を混合しても、金融統制の組織の上に於ける自己的段階の機能振りを發揮

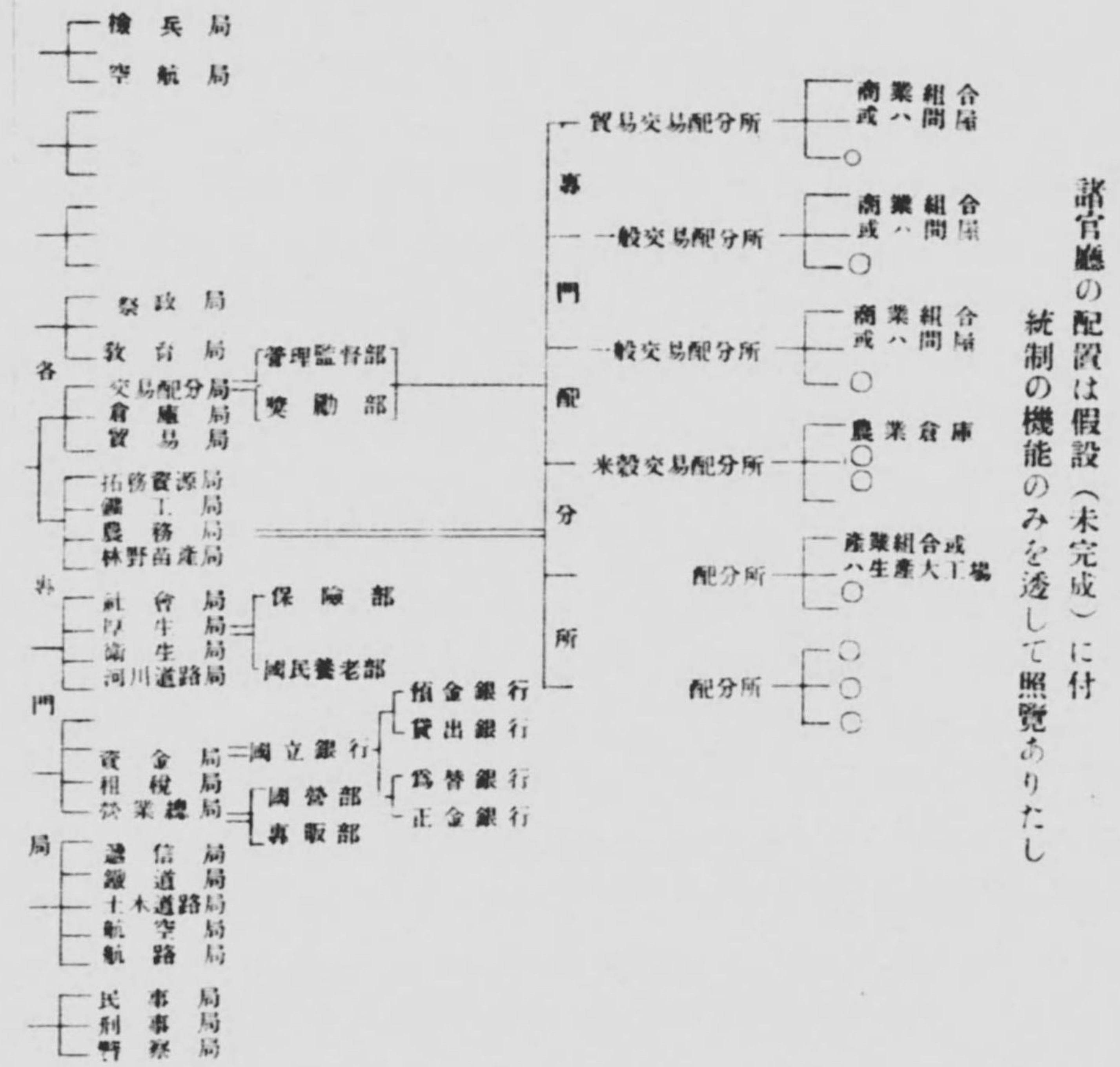
すれば、それで充分統制が運営されるのである。各銀行も自由の立場に競走的場裡を脱離する譯にはいかぬ。生産物品に對する産業保護目的の爲めに、公定價值を餘りにも有利に原價計算するとせば、生産界は謳歌され、極端に産業資産の擁護となり、産業資産搾取主義になるのであるから、必ず自主的であり、自由の競走場裡であることは、金融業者間に於ても然りである。

蓄財たる預金が、再び國民の經濟的資産と轉化することは、國家社會經濟永遠の血液であるし、又、國民の個々生活財經の血液でもある。預金から貸付へと道程を辿る金融は、機關所をくぐる紙幣の垂直的循環であり、金融機關所は、紙幣の垂直的循環にある水平的段階の關所である處のものである。即ち預金銀行代理店或は取扱店又は普通銀行である。

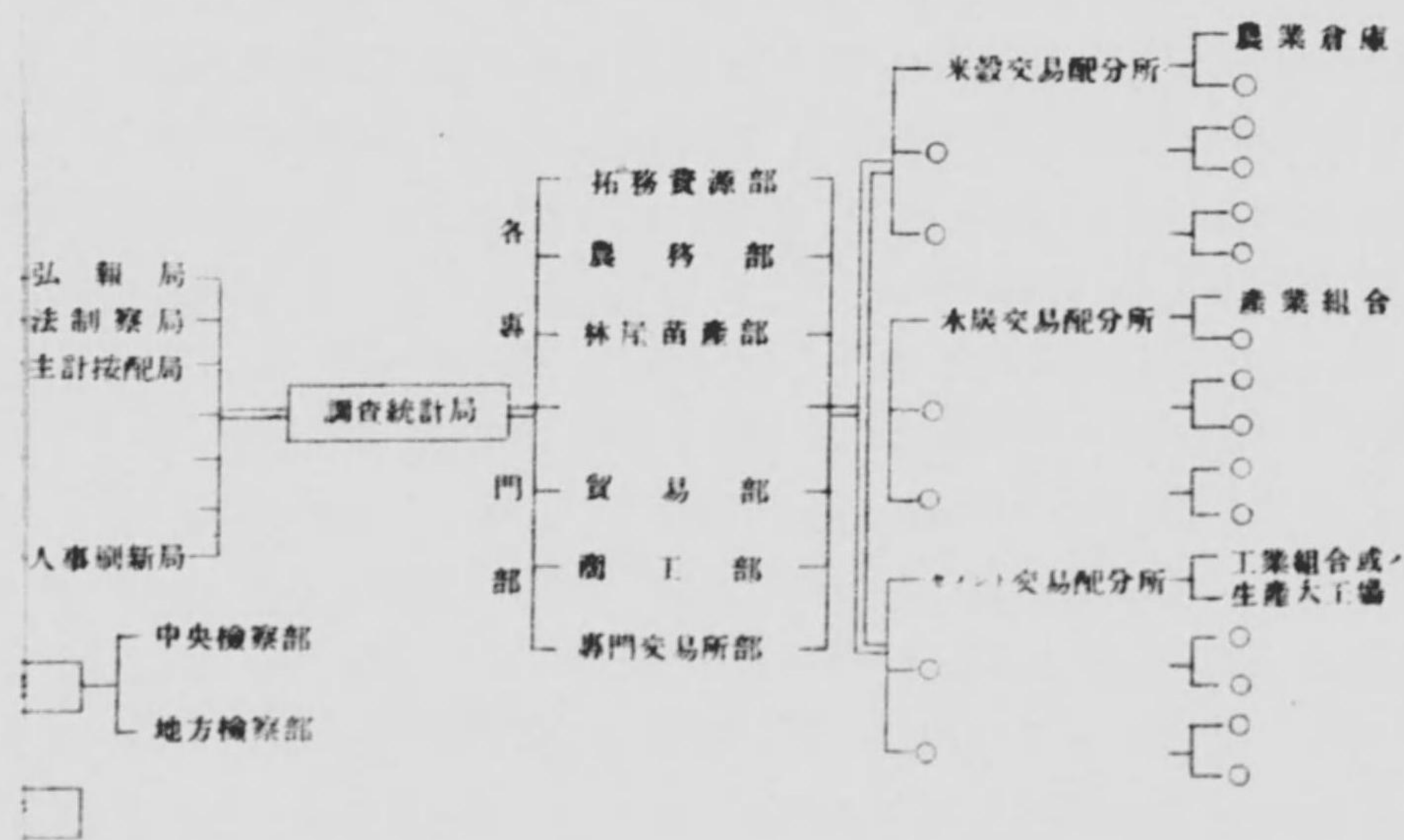
預金銀行代理取扱の信組及普通銀行からそれ／＼上段階機能機關所へ移る預金の進行運動が靜脈となれば、再び資産となり、蓄積された労働が活きた労働に機能される代表として、貸付資産となつて、貸付け流動する運動は動脈となり、共に血液となつて補ひ且つ補はれつるのである。かくみると、國立銀行の機能は靜脈と動脈との上に牛耳つて循環の支點となる心臓そのものである。又、それを斯くあらしめることは、預金及貸付の安全性を得、預金及び貸付の出來得る様な潤澤性を謀り、預金の統一利率、貸付へ對する貸付利率、或は産業界、商業界の貸出方法、物資昂騰に起るインフレン等が容易に統制し指導し、國家の目的に誘致することが出来るのであるか、その機能の及ぼす各金融業者が、靜動脈の血管上にありて能く諸機關の作用するからである。

預金之貨付轉化行動圖表

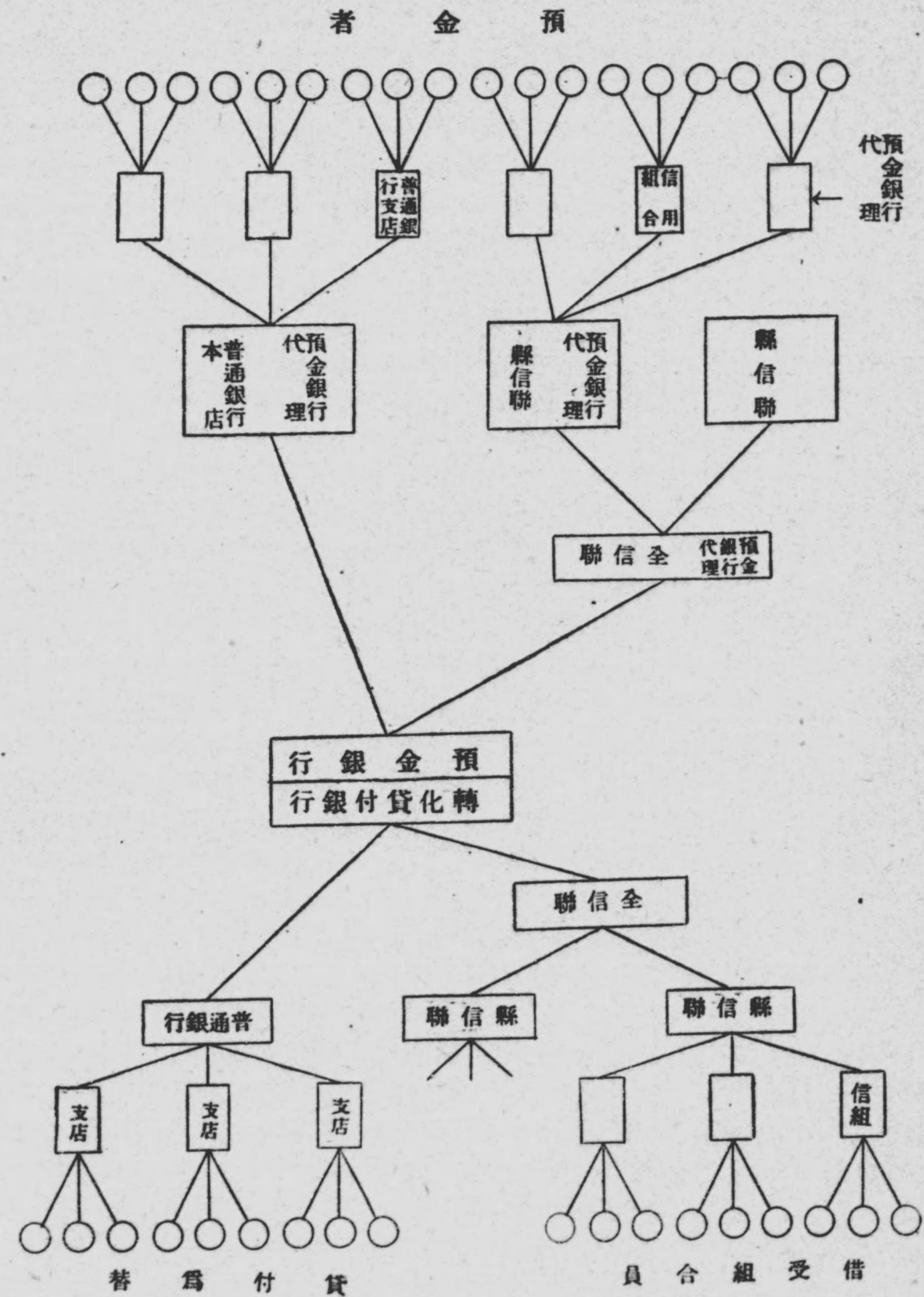


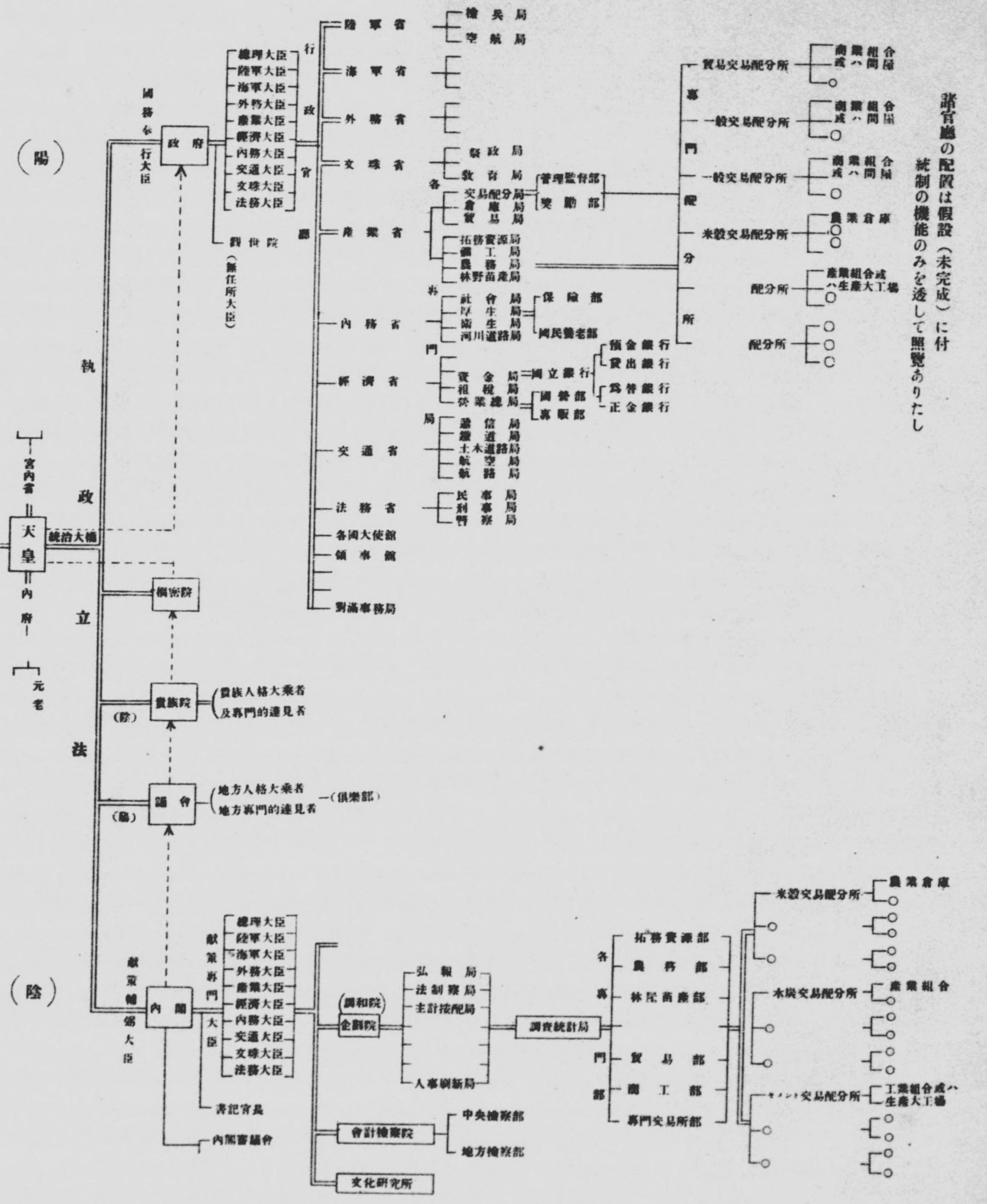


諸官廳の配置は假設（未完成）に付、統制の機能のみを透して照覽ありたし。



表圖一融金行銀通普合組用信





諸官廳の配置は假設（未完成）に付 統制の機能のみを透して照覽ありたりし

第二十二章 經濟行政

統制といふことは、抑制でもなく、管理でもなく、利己的放辣な搾取でもないことは當然である。然る故に被支配者にとりては、拘束管理されるものではなく、個人の自主的意志に基く自由のものであり、それが、爲政者にのみ統一的結果が見ゆるものである。然し爲政者は衆智凡容の思惟感情で支配統制を爲すものではなく、凡ての組織上に立つ道路に従つて運行される被支配者の結果が、自ら統一の洞察に膺らすのであるから、一血液の單位が、全體であり、全體即ち血液であることの活眼を以て、血液を活かすことが全體組織社會を活かすことである、全體組織社會を活かすことは血液の延長そのものであるといふ脱却眼から、有無長短の統制を爲政者の立場より、より圓滑に、より安全に、より優逸に運営する可きである。

道によりて歩行し、十字路によりて方向を決して歩行出来る様に、十字路に立つてゐる統制者或は十字路の機關所にあつてのみ、方向者の歩行の明瞭され整理されると等しく、十字路の大小、高低、便宜、安全、圓滑、幅及び新設機關所、指針表等の計畫が出来且つ設備される道路と等しく、生産擴大、設備、原價、急不急、技術の進捗、用途の變化、消費の程度、配分の圓滑不圓滑等が、組織の上より爲政者に依つて、完了一致文化たらしめられ且つ戰爭體制時代に於ける政策を具現化されるのである。

即ち家より十字路に到りて目的ヶ所に到る道は諸物品及紙幣の流通行程にして、十字路は、諸機關所である。個々の經濟人が制度の範圍に於て、各々の自主的に活動し研究する結果は、原料の生産増大、設備の擴大、産業組織の合理化、農業の振興、工鑛業の發達、燃料の文化制、消費の制禦、景氣の循環、蓄財價値の置換、戰時國防の高度化、物資動員計畫等が容易化されることは國力の進水力となるのである。それについて、永らく生産組織を解剖したり、計畫したりして研究し、併せて、配分組織及其の機能を討し、金融統制をも詳らかにしたのである。

そこでそれ等の統制を行政執行するについて、調和院（企劃廳）の出現によりて吾が天照主義の經濟組織の運営を奉行することが出来やう。組織の中にいそしんで、自主的努力してゐる國民の經濟成果を、組織制度を通じて、より能く統制し、指針し、指導し且つ物動するは、爲政者の洞察的推行が容易に可能されると云ふ譯である。かゝる制度を通じて奉行するに當り、調和院が立法し、研究し、立案するのである。統制は必ず法的拘束制度ではなく、管理斷歴でも命令でもなく、法によりて指針し、指導し、教導的、顧問的、頼るもの、頼られるものといふ立場で、民衆の上にあるものであつて、而して、平和に於ける目又戰爭に於ける國家の見地に動向する統治の獻策補弼機關である。

調和企劃廳は經濟組織の機關所でないから、直接に民衆の職域奉公に對立する機關所ではなく、彼れは、重要國務に關する調査、統轄、豫算、按配、國防強化案、海外の發展、産業の振興、行政の圓不圓滑、整備の改善、

人事の刷新、規格生産の統一物動計畫等々の總べての國策に關する運営の總ての技術的、綜合統制の洞察を期し世運の進展と共にすべく、民衆の照應せることを企劃して、内閣に對して進言的のものであり、又調査立案的のものたる立法院内のものである。

故を以て、首腦者及び執務者は、實際政治の衝に當るものではなく、成る可く専門的知識優秀者を集めて、社會進展歩調と一致すべき學術及技術技能の達見遂行の有無、洞察を以て文殊の智慧を利用し、實現的可能可否の照應を以て、可能と見る政策及び内閣より命ぜられたる洞察的政策に關する細密なる企劃を爲すものと言ふ。立法府立案所を以て凡ゆる社會層の複雑化を、より圓滑に、より漸進的に、社會狀勢、國家狀勢の方向を識り、之が對策及び政策を單純化に案する所である。

例へば調査統計局が調査する處の、又、調査統計局へ依頼する處の、貿易交易所に於て交易される輸出品及輸入物品について、内外諸事情によりて、プロック形成、通商問題、關稅問題の交渉或は撤廢要求の外交問題なる場合は、（宇内組織されない間）その可否を審議し、非とする處は之を除き、是とする處は之を政府が外務省の手に移し、或は立法的のものは、議會に提出して照應協賛の下に遂行するのである。又、調査統計局の調査表及び統計上之が輸入に對して、關稅引上げ或は引下げ或に撤廢の必要に迫られてをれば、是非を審議し、而して經濟省の手に移して奉公する、貿易管理及び増稅、公債の發行等の立法的のものにありては、議會の協賛を経て行ひ、貿易交易所及び一般物品交易配分所及び船舶運賃交易所の各交易所よりの取引せし代價に對して、購入稅

の如く、國產税の如く、販配税の如くの賦課に關しては、その物品によりて甲乙相違する課税として、或は五%或は二十%等として、租税の増減を謀りて租税法の一新するのであり。即ち租税豫算の按配について、又成さざる可からざる生産の増大、急不急の優先、消費節約、輸出の増大、輸入の遞減を謀るべく、企劃立案を提出進言するものを調和企劃院の一系機能とするのである。故に企劃調和院はかゝる様に内閣の補佐としてその責を担つたものであり、献策補弱の責たる内閣の下に段階位置して立案する機關である。

又、一般物品交易所より調査したる統計の生産量、又は消費量によりて、規格の單純化、規格の、より優秀化生産の振興、技術的文化の設備の改善、農、産、商、工業組合の設立如何、生産擴充方法、技術的優秀の指導包装の完備、輸出指導獎勵等をば、或は産業省へ或は貿易省へ、それぞれ専門部門へ移管して行政される。

資源地帯又は資源材によりて、輸送的調査及び山林科目、金礦、炭礦等々の資源の開發補助金又は獎勵金、或は森林鐵道、殖林等の拓務關係に於ては、同じく内閣の審議會を経て、各専門局へ移し、又立法的のものにありひは、之が議會の照應協賛を経て、専門推行機關所へ移す。

船舶運賃交易所より現はれる運賃問題、船舶問題、改善、保險或は航空、電信電話、戰時に於ける輸送計畫、鐵道交通、橋梁等に起る大道國策は、同じく逓信、交通省の各専門局の手に移す。

農産工場或は工鑛工場の能率或は技術に關し、國防的見地に立脚する軍需品生産工場を増加及び何時たりとも加速的動員體制、熟練技術家の養成等々も照應協賛を経て産業省に移管する。

消費量を超過せる生産物の蓄財價值が大なる場合には、之が輸出向きではなく、輸出せざる場合にありては、

政府をして之が蓄積價值部分を貴金屬に置き換へ轉化せしむ可く、而して景氣を循環せしめる。茲に到りて貴金屬轉化に際して、それが貴金屬の市場等價より、より大なる等價物品が使用されやうとも、經濟的圓滑なる景氣循環の下には、必要とする經濟企劃として、營務總局によりて直接事業せられやうとも、或は産金者へ獎勵金の下に或は購ひ上げ或は損失保償によつて、一般物品の超過を代置せしめる。而して爲替準備金として資金局へ移る。

尙ほ租税について、各取引配分所の手を経て納金される販配税即ち交易所より購入する問屋のその購入額によりて賦課される税額によりてのみ國費歳出が賄はれない場合、一般國民から課税する他の税によりて補はる。それは天照主義經濟の下に一般労働者にも分配されたる蓄財價值は、有に國民税に堪へられるからである。又、營業的專販局、中流階級以上の消費物品に對しての賦課金、富籤等の必要な場合には議會の照應協賛を経て、或は政府營務總局或は租税局に之が移管する。それなる專販局及國營なるものは、國民の有害をなし改める爲めにであらうとも、又、之が國民のより奢侈品の矯正又は消費節約の爲めであらうとも、將亦戰時に於ける消費統制たることも、間接税とする如く、又はビールに依つて中流以上の間接税を得可く專販の如くによりて一般國民の租税の輕減することを、より良いとして調和院は提出する。

之等事業の必要の爲めに經濟省券として、利子附證券又は公債を發行して充足することは、健全證券であるから容易に國家財經の必要として提出する。又思想に治安に、暴利取締に、抗爭絶滅に、勞働時間問題、利益分配

問題、防火、防水、防空に關する總てはその本質を起草して各省に提出する。皇室の尊嚴、愛國心の披瀝、教育の刷新、國民精神の作興、體育向上戰時に於ける犠牲の奉仕等もそれぞれ企劃して文珠省に提出する。

是の如くに各企劃立案したものを、内閣に提出して、その善惡、時機の審議の上各々専門部局より奉行するのである。それに依つて經濟組織は有機體となる運営は鏡の如く現はれてくる、交易所の統計及結果洞察が、將來の政治となり、將來の腹案となつて、統制の、より良い制度化することが可能である。

自主的經濟組織の上位にありて、より良く鏡の如くに民衆の奉仕經濟が判りて、創意を拘束せずして、又法的命令なくして國家の爲めに提供され、國力、國威、として民意が有機的に統制が行はれるを信じて疑はない。

結 詞

國民の有機的活動力を停止又は遲滯せしめることを以て戰爭時に於ける國民の犠牲とする過りは、益々内患に加重させ得るものである。國民の總意を戰爭時に具現化せしめるについて、平時と異なる處は、戰爭に重點された物資が生産充實されるといふことのみである。國民の一人をも活動力を溢滞せしめてはならぬ。一億の民は一億とも翼賛に生命力を打ち込まねばならぬことである。一億の民は一億とも翼賛することは、各異る分野を有機的に、日夜職域奉公することであつて、極めて大なる熱意と、大なる生産を成果せしめることである。

その爲めには、吾々は、勞働と資産の一體關係を知つたり、國民經濟と國家の綜合力とを知つたり、生産の成果と國力の精華とを知つたりしたのであるが、決して、平時に於いてのみ役立つ倫理ではなく、又、平時に於いてのみ役立つ國家組織ではなかつたのである。

内患に禍ひされて、國外に對する總べては、如何様にも打つ方法の出來ぬ今日、皇國の興廢此の一時に在りといつても過言でない國難に遭遇してゐるものと見らるるとき、尙更、國家的經濟組織の下に國民の總意を綜合的に有機化して、戰爭と結びつけねばならぬ。依つて、吾が經濟論理の上に國家綜合經濟組織を打ち建てて、政治と經濟が一體化し、戰爭體制と經濟體制と有機的關聯せしめねばならぬことである。

國民が感激と熱意に依つて翼賛される一日の成果は、生産と蓄財物資との上に現はれて、軍備は高度に充實さ

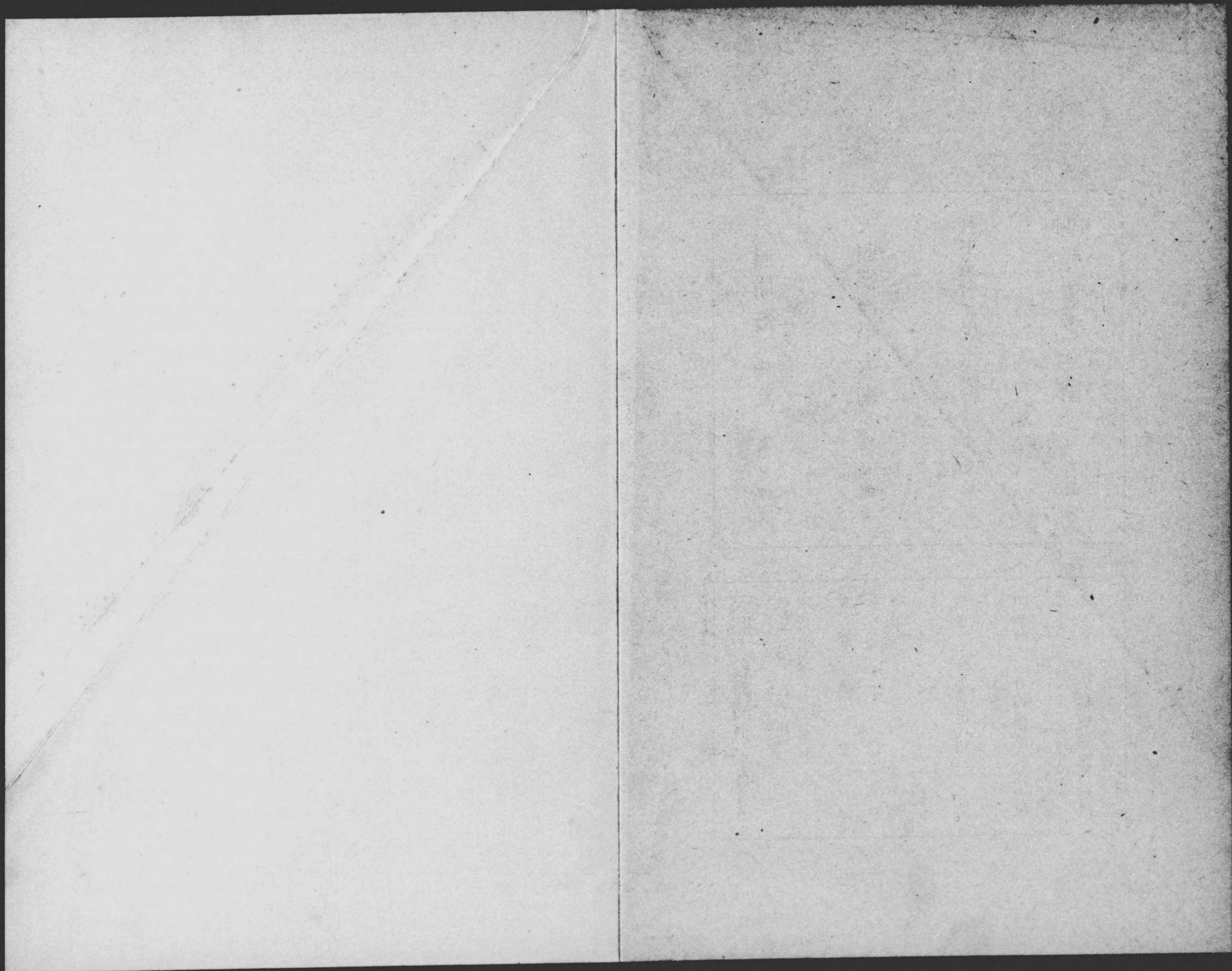
れ、戦争の永續化に銚後の生産は設備される。労働者はその處に位して發揮し、資産は資源掘窟と再生産目懸けて有用化せられ、國民の手持財は凡ゆる方面の物動參劃提供せしめて國難打開の完結に努力をする。

國民の總意は生命力となつて有機體に現れて國難克服に與るものは、國家經濟組織の中に労働者は自己の職域を通じて犠牲を奉仕し、商人は中間機能者として其の處に位して犠牲を奉仕し、資産家に於ても、凡ゆる實踐はそれ／＼その日夜の活動の中を通じて提供し、奉仕して翼賛されることだ。

國民は私利私益の一切を斥けて、經濟を活かして國家に奉仕せねば國民の本分を全ふしたといへないし、且つ國難の衝に當たることは出來ぬ。又、道義國民として戦時の永續的有機體に實踐したとは言ひ得ない。指導者よ國民の總意翼賛を綜合して國家を強力にし熱と力に依つて戦争の勝利を劃さねば、現實から離れたものとならざるを得ないのだ。國民よ、各自の立場に於て國難克服の實踐に奉仕して、彌が上にも國家的立場に經濟を組織して高度且つ持續の戦争體制と一體化せしめねば克服が出來ぬことを深く刻まれない。

天照明徵元論	炭克彌著
天照經濟學大綱	炭克彌著
君主議會と民主議會	炭克彌著
陣頭經濟之基點	炭克彌著

天照主義經濟汎論【非賣品】	
昭和十六年十月三十日納本	
昭和十六年十一月五日發行	
著者	炭克彌
發行人	馬場祐輔
	<small>東京市谷區大山町二三 電話海番一五七四番</small>
印刷人	平田猪之助
	<small>宮山縣新井町中伏木六〇</small>
印刷所	日報印刷株式會社
	<small>宮山市徳田二六〇 電話四八二五番</small>
發行所	小林省三郎事務所
	<small>鎌倉市豊ノ下五八一</small>



927
45

